



ARCHITECTURAL
DESIGN AWARD
2025

presented by KMEW



ARCHITECTURAL
DESIGN AWARD
2025
presented by KMEW

3rd STAGE

未来へ残したい建築を
発掘する。

「未来へ残したい建築を発掘する」をテーマとした施工事例アワード、「ARCHITECTURAL DESIGN AWARD」の開催も今年で3回目を迎えました。
本年度も、数多くの魅力あふれる作品をご応募いただきました。
その中から、2025年度の受賞作品が決定いたしましたのでご紹介いたします。
建築としての素晴らしさはもちろん、素材や周辺環境の特性を巧みに活かした、
新たな時代の建築デザインをぜひご覧ください。

WINNERS
受賞一覧



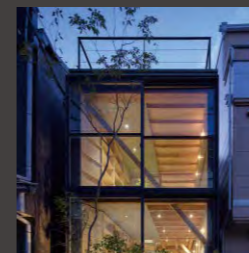
Excellence Award
優秀賞
みどりの会所
アスロメディカルつくば営業所
P.11



Excellence Award
優秀賞
道の駅そらっと牧之原
P.15



Excellence Award
優秀賞
SEN.RETREAT TAKIJIRI
P.19



Special Award
特別賞
中道のアトリエ
P.22



Selection Award
入選
アドベンチャーバレー龍ヶ崎
(龍ヶ崎市森林公園)管理棟
P.24



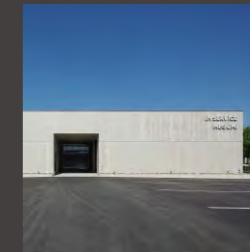
Best Award
最優秀賞
アグリカレッジ福島
アグリ探求棟・屋外作業準備棟・
一般宿泊棟・学生寮 /
スペシャルインタビュー
P.05



Excellence Award
優秀賞
TODA BUILDING
P.13



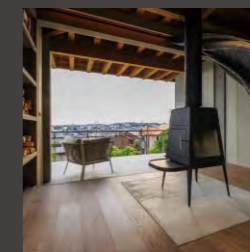
Excellence Award
優秀賞
脊梁のいえ
P.17



Special Award
特別賞
間屋町の社屋
P.21



Selection Award
入選
表表居
P.23



Selection Award
入選
豊中の家
P.25

JUDGE'S COMMENT

[審査員総評]

国内外で活躍する

3名の建築家による厳正な審査。

国内外で活躍される建築家

3名を審査員として迎え

各賞 全11点を選出しました。



© David Vintiner

SOU FUJIMOTO 藤本 壮介

周辺環境との調和を、
いかにデザインするか。

今年も非常に楽しく審査をさせていただきました。作品のクオリティがとても高く、成熟したプロジェクトが増えているように感じています。特に、建物とその周辺環境が自然に調和している点が印象的でした。例えば、建物が道の一部のような雰囲気を醸し出していたり、あるいは外と中のつながりがとても丁寧に設計されていたりという作品が多く見受けられました。建築において最も大切なのは、建物と周辺環境をどう接続するか。見た目の良さだけにとどまらず、その場所を使う人の生活や活動まで考慮したデザインになっていることが重要です。今回入賞した作品はもちろんのこと、惜しくも入賞を逃した作品の中にも、そのことに対する強い意識があらわれていて、日本の建築はますます期待できるのではないかと感じました。

profile 1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任。2024年には「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託」の基本設計者に特定。主な作品に、ブダペストのHouse of Music (2021年)、マルホンまきあーとテラス 石巻市複合文化施設 (2021年)、白井屋ホテル (2020年)、L'Arbre Blanc (2019年)、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013 (2013年)、House NA (2011年)、武蔵野美術大学 美術館・図書館 (2010年)、House N (2008年) 等がある。



YUKO NAGAYAMA 永山 祐子

素材の魅力と設計技術が重なり合い、
素晴らしい建築を生み出す。

今回は、建築としての良さと、素材の使い方の巧みさ、その両方を併せ持った作品が非常に多かったことが印象的でした。ケイミューの素材が持つ、豊かな表情や光とあわせた時の陰影感のバランス、さらには周囲の自然素材と美しく調和するといった魅力。それらを上手く活かし、建築としての魅力に昇華させている点において、受賞された作品は際立って優れているように思います。また、新色を使用した受賞作品に見られるように、素材にはいま求められている色や質感が存在します。建築家とケイミューが意見を交換しあうことで、より良い素材、そして素晴らしい建築が生まれることにつながっていくのではないのでしょうか。このアワードを通して、そんな良い関係性が育まれていくことを楽しみにしています。

profile 1975年東京生まれ。1998年～2002年青木淳建築計画事務所勤務。2002年永山祐子建築設計設立。2020年～2024年、武蔵野美術大学客員教授。2023年よりグッドデザイン賞 審査副委員長。主な仕事、「LOUIS VUITTON 大丸京都店」「豊島横尾館」「女神の森セントラルガーデン」「ドバイ国際博覧会日本館」「東急歌舞伎町タワー」、大阪・関西万博「ウーマンズパビリオン」、パナソニックグループパビリオン「ノモの国」など。JIA 新人賞(2014)、山梨県建築文化賞、東京建築賞優秀賞(2018)、照明学会 照明デザイン賞 最優秀賞(2021)、World Architecture Festival Highly Commended (2022) など。現在、Torch Towerなどの計画が進行中。
<http://www.yukonagayama.co.jp/>



Photo by naoakiyamamoto

YURI NARUSE 成瀬 友梨

多様化していく、
素材の用途と活かし方。

審査員を務めさせていただき、3年目となりました。当初と比べると、ますます非住宅物件の応募が増えているように感じています。今回は、最優秀賞を含め上位に選ばれた作品の用途が非常にバリエーション豊かで、さまざまな建物に対してケイミューの素材が上手く活かされていました。使われている素材にも広がりがあり、例年人気のSOLIDO以外にも、LAP-WALLのうろこ模様を個性あるファサードとして活かした作品などが見られ、これまでにない素材の使い方を勉強させていただきました。特に新鮮だったのは、素材をそのまま使用するのではなく、見切り材を入れてアレンジしたうえで取り入れる作品が登場したことです。素材と長く向き合い続けることで、建築家が素材を活かす技術が蓄積されてきているのではないのでしょうか。

profile 1979年愛知県生まれ。2007年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程単位取得退学。2007年猪熊純氏とともに成瀬・猪熊建築設計事務所設立。主な作品に「OMO7横浜 by 星野リゾート」「Nishiogi comichi terrace」「お宿 Onn 中津川」「Dance of light」「LT 城西」。主な受賞に、2025年度グッドデザイン・ベスト100、第28回木材活用コンクール 林野庁長官賞、ウッドデザイン賞 2024 奨励賞、第33回 AACA 賞 優秀賞、大韓民国公共デザイン大賞 国務総理賞。主な著書に、『シェア空間の設計手法』、『子育てしながら建築を仕事にする』。

Best Award
最優秀賞

アグリカレッジ福島

アグリ探求棟・屋外作業準備棟・一般宿泊棟・学生寮
[福島県 西白河郡]

辺見設計・C+A共同企業体



赤松 佳珠子 氏 / Kazuko Akamatsu
大村 真也 氏 / Shinya Omura
邊見 啓明 氏 / Hiroaki Hemmi

PRODUCT

外壁材 / LAP-WALL Brick (グラッサ・シェイドブラウン/ブラック/グレー)
LAP-WALL Wood (グラッサ・ブラック)
SOLIDO typeM_LAP (錆茶 / 灰 / 鉄黒 / セメント)

これからの農業の担い手を育む、 新たな学びとつながりの場。

農業短期大学校において、研修施設と学生寮、遠方からの研修生を受け入れる宿泊施設を一体整備する計画。アグリ探求棟は六角形平面のホールを中心に据え、建具の開閉によって多方面とつながる構造に。学生寮と宿泊施設は、農家の曲り家のようなL字型の平面と、各棟をつなぐ廊下（ミチ）が庭（ニワ）を囲い、その結末点（ツジ）に学生や研修生、農業者との交流が生まれる場を設けた。

/ JUDGE'S COMMENT /

by 藤本 壮介

施設をつなぐ廊下と広場のような庭、そして建築が緊密に関係しあっていて、この場所を巡り歩く楽しさが感じられました。すべての素材が全体の雰囲気馴染むよう選定され、美しい環境が作られています。

by 永山 祐子

開放的なホールから、住宅のようなスケールの場所まで、変化に富んだ空間が一つの建築の中にバランスよく配置されています。大規模な施設ながら、自然の中に溶け込んでいる点も素晴らしいと思いました。

by 成瀬 友梨

最先端の農業を、最先端の建築で学ぶことに大きな価値を感じます。それぞれの建物が、特徴を持ちながらもやさしい佇まいでまとまっていて、こんな場所で勉強したいと思わせてくれる作品でした。



©ToLoLo studio

BEST AWARD

Special interview

辺見設計・C+A 共同企業体

2025年ADA最優秀作品を手掛けた辺見設計・C+A共同企業体のみなさまにインタビュー。「農村集落」をテーマとした設計思想と、素材選定への思いをお聞きました。(以下、敬称略)

「集落」から生まれる、農業と建築の未来。



開かれた学びの場を目指して、「集落」をテーマに相互をつなぐ。

—— 今回のプロジェクトの背景や、設計に至った経緯から教えてください。

赤松 2021年に実施された、福島県農業総合センター農業短期大学の施設設計者を選ぶ公募型プロポーザルで、私たちの案が最優秀に選定されました。

大村 応募条件には、地元の設計事務所と共同企業体を組むこと、木造の低層建築であることといった特有の要項がありました。プログラムとしては、最先端のスマート農業を学ぶ研修施設と、学生寮の建て替えが一体となった、非常にユニークなものでした。これまで農業学校は比較的閉じた存在だったのですが、外部の研修生も受け入れ、キャンパスの入口付近に「開かれた学びの場」をつくることに魅力を感じて応募しました。

—— パートナーとなる福島県内の設計事務所として組まれたのが、辺見設計ですね。

邊見 県内事務所が県外事務所と組むことを可能とする、画期的な条件でした。お声がけいただき嬉しく感じ、ぜひ一緒にさせていただきたいとお返事しました。プロポーザルの条件が木造を基本とすることで、弊社の木造建築の実績と、福島県内での木材調達や加工といった知見を活かして提案できるのではないかと思います。取り組みました。

—— どのような考え方で配置計画を進められたのでしょうか？

大村 初期段階から、新築でありながら昔からそこにあったように感じられる、農村集落のような景観を創出することを構想しました。建築面積4,000㎡を超える規模を、法規上在来木造が可能となる1,000㎡以下の棟に分ける形式としています。全体の配置では、既存校舎と連続する「学びの軸」を設定したうえで、学びゾーンの「クリエイティブ・commons」と生活ゾーンの「リビング・commons」に大別し、中央の「キビタキ広場」を介して向かい合う構成にしました。

赤松 学生たちが寮で居心地よく生活できる集団の規模を考えながら、農業の学びと日々の生活、そして自然がグラデーションにつながっていく環境づくりを目指しました。

大村 それぞれの棟の間は明確に区切っていません。「アグリ探求棟」と「屋外作業準備棟」がエントランスとして外部の人を迎え入れ、奥の「学生棟」に進むにつれてプライベート感の高いゾーンになっていきます。



一般宿泊棟 ドマ

C+A 樋田美鈴氏、赤松佳珠子氏、大村真也氏 (左から)

六角形ホールが生む、多機能な学びの空間。

—— それぞれの建物の特徴について教えてください。

大村 キャンパスの新たなシンボルとなる「アグリ探求棟」は、不定形の六角形平面をした「クリエイティブホール」を中央にもちます。既存の豊かな木立がある「農の広場」を活かし、外部からの動線や既存の多目的学習棟との接続を考慮しながら、隣接するスペースとのつながりも持たせるために六角形になりました。そして、今回の提案の大きなポイントが、スマート農業機械を納める「スマート農業格納庫」をホールのステージとして活用するというアイデアです。外壁に設けたオーバースライダーと、ホールに面した可動パーティションの開閉により、格納庫としてもステージとしても利用できます。

赤松 パーティションを開け放つと、トラクターなどの実機がステージに現れ、機械を見

せながらの講習や演習が可能になります。

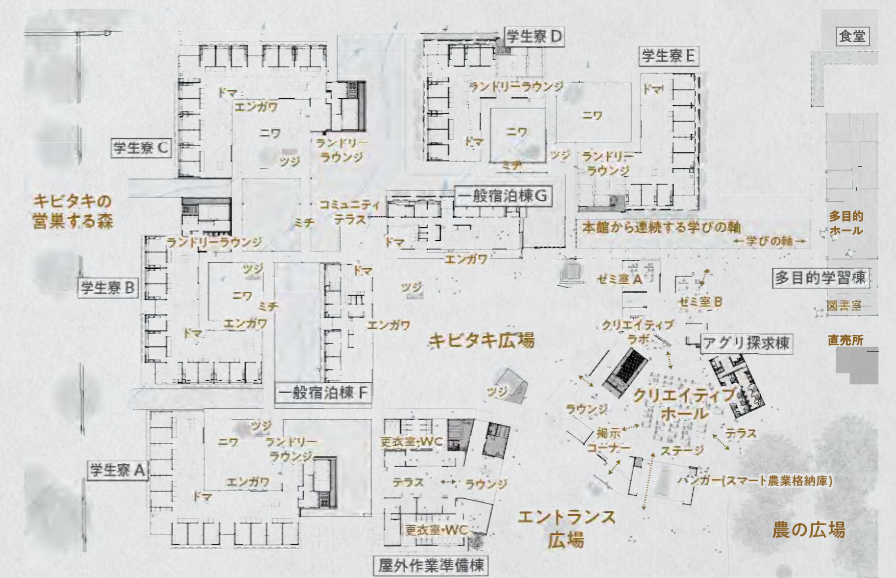
大村 六角形のホールは、正面ステージに加え、3方向の白い壁面にプロジェクターで映像を投影できます。例えば、正面でプレゼンテーション資料を、側面で実機の別アングル映像を、別の面で動画を同時に映すといった立体的な学びが可能です。また、六角形という形状は特定の正面を定めず、複数のグループが同時に活動することも可能にしています。ワークショップや就農相談会など、イベントに応じて多様なテーブルレイアウトを組むこともできます。

農家のような寮が育む、居心地の良い生活空間。

—— 「学生寮」や「一般宿泊棟」はどのように設計されたのですか？

赤松 5棟の「学生寮」は、設計思想である農家住宅のイメージを最も色濃く反映しています。それぞれは日本の伝統的な「曲がり家」のようなL字型の平面を持ち、内部に土間空間

〈平面図〉



(ドマ)を引き込んだり、縁側(エンガワ)の半屋外空間を設けています。また、各棟をつなぐ不燃の渡り廊下(ミチ)が庭(ニワ)を囲い、その結末点(ツジ)には学生や研修生、農業者などの交流と活動の場となるコミュニティテラスを設けました。

大村 「学生寮」と遠方からの研修生などが滞在する「一般宿泊棟」は2階建てで、全体を小さなスケールで構成しました。寮の部屋と部屋の間にもテラスのような空間を設けることで、風の通り道をつくっています。

——「学生寮」の出入口を「ランドリーラウンジ」にされたというのも面白いですね。

大村 設計要件に風除室がなかったため、洗濯室自体を玄関にするというアイデアを提案しました。洗濯という日常的な行為が表で行われることで、寮生の生活の一部が開かれ、自然なコミュニケーションのきっかけとなることを意図しています。

——完成後、学校側や利用者の反応はいかがでしたか？

赤松 一般的な鉄筋コンクリートの建物がもつ寒々しい印象とは対照的に、木の温もりや居心地の良さが評価されています。実際に、在校生の妹さんがオープンキャンパスで施設を見て「ここなら行きたい」と口にされたというエピソードも聞いています。快適な生活環境が農業というテーマと結びつき、入学を後押しする要因になっているようです。

地域材活用と循環型思想が支える、これからの木造建築。

——規模の大きな木造建築として、木材の調達や構造についても教えてください。

邊見 プロポーザル段階から木材使用量を算出し、最終的に約800m³という大量の木材が使用されました。その大半は、福島県と栃木県の県境に位置する八溝山系の杉材です。この地域材は秩父古生層という良質な土壌で育つため狂いが少なく、木目が綺麗で赤みが強く、曲げ強度が高いという特徴があります。建物の仕様から使える材料を考えるのではなく、地域で採れる資源から建築を考えるアプローチを取りました。構造設計を担当した稲山正弘さんは、木材流通の川上から川下まで造詣が深く、地域資源を活かす設計において重要な役割を果たしてくださいました。

大村 「アグリ探求棟」のホール上部には、120×240mmといった一般的に流通している断面の製材を組み合わせた張弦梁による構造を採用し、特殊な大断面集成材を使わずに大空間を実現しています。

邊見 木材は生物材料であるからこそ得られる視点があり、CO₂排出、地球温暖化、経済などすべてが繋がっています。今回のプロジェクトでは、伐採後の山への再植林まで含めた林業の循環サイクルも提案しました。

長い時間あり続け、自然に馴染む素材選定。

——外壁材の選定について、どのような考え方で進められましたか？

赤松 木を積極的に利用する建築を活かすため、外装材には派手な色味は使わず、また周辺の緑豊かな自然と調和する落ち着いた色のある佇まいにしたいと考えました。

大村 そして農村集落のような景観をつくるため、分棟形式の建物群が、画一的な公営住宅のようにならないように配慮しました。また、建設する工務店は複数に分けることを想定したのですが、工事によるクオリティの差が出ないことを考え、既製品のなかから選定しています。そして公共建築では修繕予算が付きにくい実情を踏まえ、経年変化によって、むしろ魅力が増す素材を求めました。

赤松 ケイミューの製品がもつ素材感は、一般的な既製品にありがちな均質でツルツとした質感ではなく、雨や日差しなど季節の移ろいを映します。自然のなかに存在するときに、しっくりくるように感じました。特にセメント素材の(SOLIDO)は自然発生的な色ムラが特徴で、何かを模倣したフェイクではない質感が選択の決め手となりました。

大村 隣り合う建物が同じ色にならないように配慮し、外壁については建材の色のパリエーションを活かしました。色は強いコントラ

ストで変えるのではなく、微妙なトーンのグラデーションで構成しています。

赤松 一見すると同じようでも、よく見ると違いが分かる表情の仕上がりになりました。

——外装材の使い分けについて、具体的に教えていただけますか？

大村 場所の特性に応じて、製品を使い分けています。集落というコンセプトにおいて「アグリ探求棟」は街の教会やお堂のようなシンボルとして位置づけ、屋根は赤色のガルバリウム鋼板仕上げにしています。この屋根に接する壁面には(SOLIDO typeM_LAP)の「鉄黒」と「錆茶」を使用しました。「キビタキ広場」に面する「屋外作業準備棟」には同じ(SOLIDO)の「灰」、「一般宿泊棟」には「セメント」色を採用しています。小さな庭を囲む「学生寮」には(LAP-WALL / Brick)の「グラスサ・シェイドブラウン/シェイドブラック/シェイドグレー」を用いました。また「アグリ探求棟」の一部には(LAP-WALL / Wood)の「グラスサ・ブラック」を採用しています。(SOLIDO)と(LAP-WALL)のどちらとも同じ下見張りの仕様ですが、モジュールと色味を変えて張り分けることで、全体として調和しながら表情が豊かになることを考えました。

赤松 このプロジェクトで外壁材を決定するために、ケイミューには数多くのサンプルを提供していただきました。私たちは実際に触れ、現場で確認しながら決定するプロセスを大切

にしています。さまざまな種類を並べて見ながらじっくりと検討することができたのは、本当にありがたかったですね。

大村 外壁材の色選びは、屋根のガルバリウム鋼板のほか、サッシやアルミルーバー、樋やベントキャップ、さらには内部空間のメラミン化粧板なども突き合わせながら決定していきました。ケイミューの製品はエクステリアからインテリアまで、建築と取り合う多くの要素との調和が取りやすい色彩が用意されているので、今回のプロジェクトにとって大きな利点となりました。

自然な風合いの建材がもつ、安心感と循環の理念。

——現地の気候条件は、外装材の選択に影響しましたか？

大村 建設地である福島県の矢吹町は、標高が比較的高く肌寒い地域です。積雪はあまりないのですが、平坦な地形で風が強い傾向があります。既製品の外壁材は機能が確保されていて、施工中を含めて多少汚れても大丈夫という感覚はありましたね。

赤松 特に(SOLIDO)は、最初から白華によるムラがあって、自然の風合いとして現れています。これが均質な状態であったら経年変化が目立ちますが、(SOLIDO)は時間が経っても印象が大きくは変わらないという安心感に繋がっています。

——建材を選ぶ際のポイントは、ほかにもありますか？

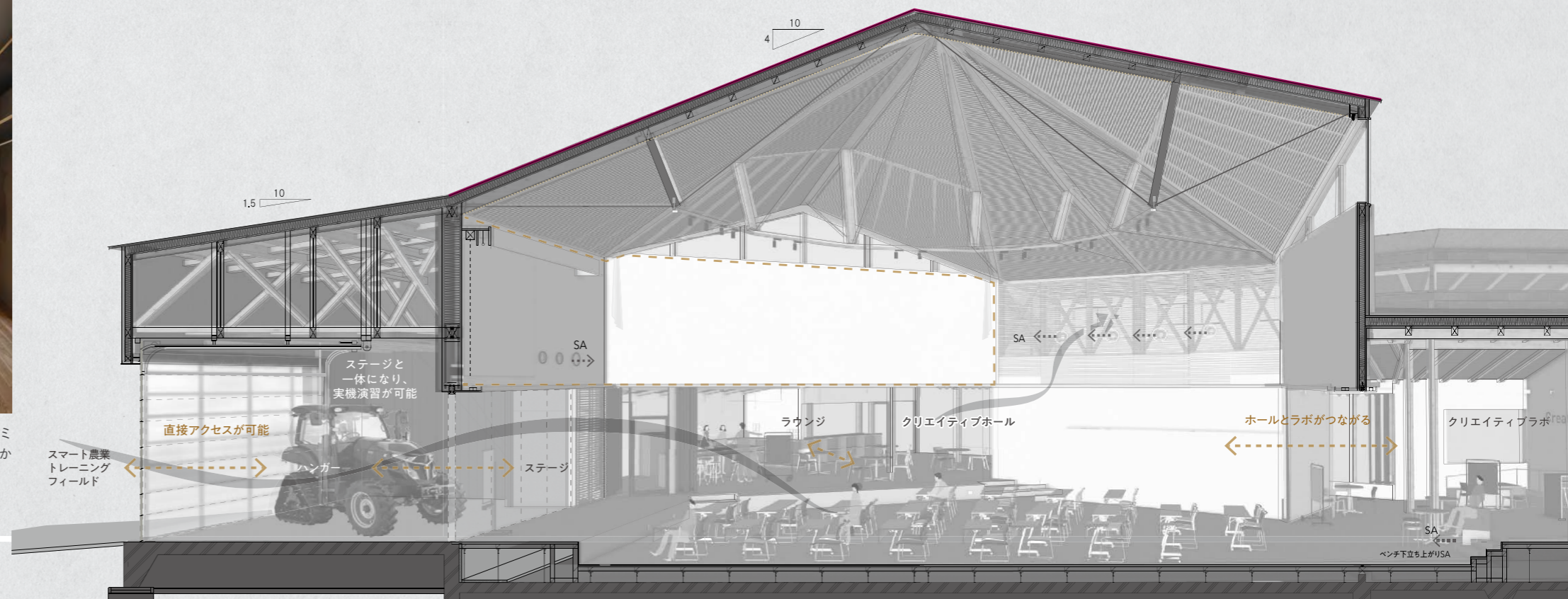
邊見 私の事務所では、今回は別に県の農業関連施設のプロポーザルに参加し、選定されました。その施設でも(SOLIDO)を提案し、製品の質感に加え、コーヒー豆のかすを再利用した製品開発や、製造過程で生じる廃材のリサイクルなど、ケイミューの建材に対する取り組みも紹介しました。今回のプロジェクトでも建材がもつ背景が、自然の循環にもとづく農業や木造建築と重なり合い、広がりのある建築になっていると思います。

大村 今回初めて邊見さんと協働し、林業、加工業者、行政をつなぐ木材の流通を一連で理解することの重要性を学びました。国産材や地元材を使いたくてもコストや流通の問題で実現が難しかった過去の経験がありましたが、この知見がなければ、役所への効果的な働きかけは困難だったと思います。

赤松 今まで建築と人のアクティビティや周辺環境を一体的に考えてきましたが、今回は特に自然の中での立地や、県産の木材を活用するといった取り組みを通じ、建築を単体でなく、農業や林業、素材の循環といったより広い文脈で捉える意識が深まりました。



(左上)コミュニケーションのきっかけになるよう意図された「ランドリーラウンジ」。(左下)渡り廊下(ミチ)が庭(ニワ)を囲い、その結末点(ツジ)にコミュニティテラスが設けられている。(右)学生寮の個室からは周辺の緑豊かな自然が眺められる。



アグリ探求棟 断面図 S=1/150

Excellence Award
優秀賞

みどりの会所
アスロメディカルつくば営業所

[茨城県 つくば市]



株式会社 TOAST

小滝 健司氏 高藤 万葉氏
Takeshi Odaki Mayo Takato

PRODUCT 外壁材 / FLAT DESIGN PANEL グラフィル
(QF グラフィル チタンライトグレー)

街の拠り所となる、
新たなオフィスのかたち。

丘陵地に建つオフィスの計画。事業用エリアと住居エリアの境界に位置する土地において、オフィスとしての機能を超え、災害時も含め地域住民が集まれるような場所となることが求められた。その要望に応えるため、エントランスホールを建物の中心に据え、各室に直接アクセスできる平面計画に。また、住宅のような軒の出や開口部、外壁によって、近接する住宅街に調和する外観を構成した。(応募資料より抜粋)

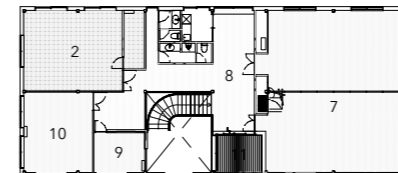
/ JUDGE'S COMMENT by 藤本壮介 /

オフィスとして機能しつつ、会所にもふさわしい開放性が印象的でした。鉄骨の骨組みと木の屋根や建具の組み合わせが絶妙で、建築を超え、街の一部であるかのような空間を見事に実現されています。

〈1F 平面図〉

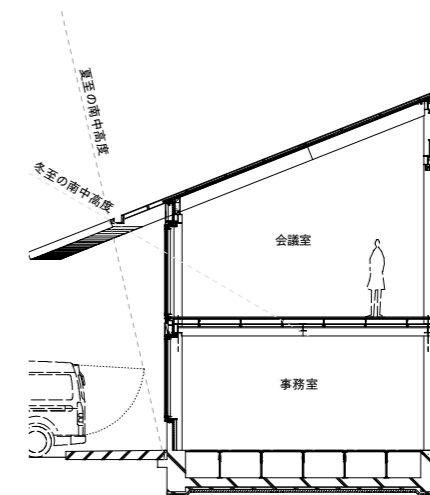


〈2F 平面図〉



1. エントランス 2. 倉庫 3. 事務所 4. 洗浄室 5. 控室 6. 書庫
7. 会議室 8. ホワイエ 9. 小会議室 10. 応接役員室 11. バルコニー

〈矩計図〉



〈構造アクソメ図〉

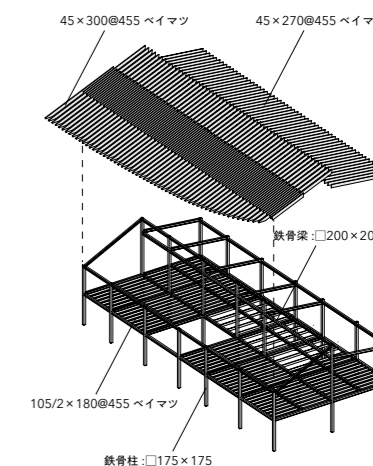


Photo by 中山保寛写真事務所





Excellence Award
優秀賞

TODA BUILDING

[東京都 中央区]



戸田建設 株式会社

中川 康弘 氏 / Yasuhiro Nakagawa
一條 真人 氏 / Masato Ichijo

田嶋 友一朗 氏 / Yuichiro Tajima
吉川 拓也 氏 / Takuya Yoshikawa
大嶽 伸 氏 / Shin Otake
一本松 亜祐 氏 / Ayu Ipponmatsu

PRODUCT 内装材 / SOLIDO typeM_FLAT (鉄黒)
SOLIDO typeF coffee

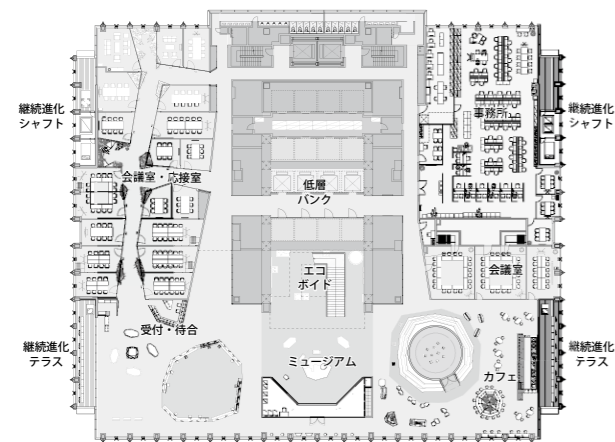
都市にひらかれた、
アートとビジネスの拠点。

中央区京橋に拠点を遷して127年目となる年に、新たな本社ビルとして生まれ変わる計画。地域に開放された間口80m・奥行き35mの広場は、中央通りで行われる様々なアクティビティの受け皿に。さらに、広場から連続する3層吹き抜けのロビー空間をワーカーや一般来館者が行き来することによって、日常的にアートとビジネスが交錯し、新たなイノベーションが生まれる場を目指した。(応募資料より抜粋)

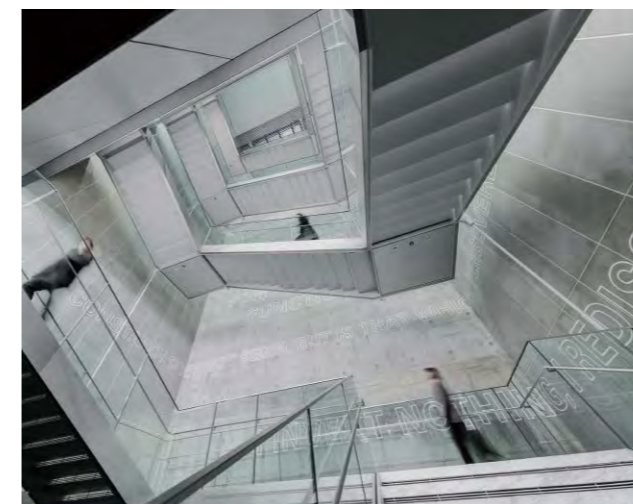
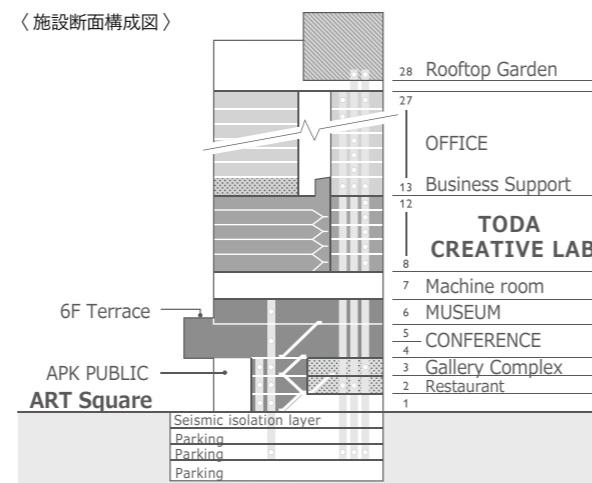
/ JUDGE'S COMMENT by 藤本社介 /

大規模であるがゆえの都市的な責任をしっかりと引き受けているプロジェクト。素材選びや空間性への配慮が行き届いた豊かな空間がいくつも作られていて、全体が非常に高いレベルでデザインされています。

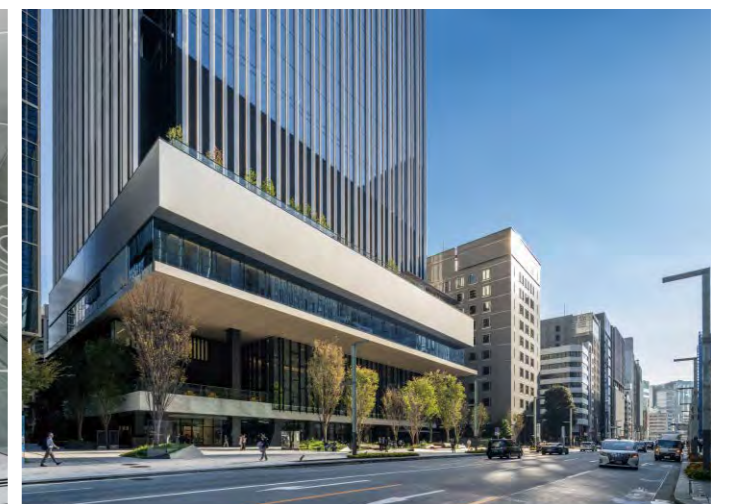
〈8F平面図〉



〈施設断面構成図〉



© エスエス



© 川澄・小林研二写真事務所

Excellence Award
優秀賞

道の駅そらっと牧之原

[静岡県 牧之原市]



高橋茂弥建築設計事務所+
高池葉子建築設計事務所

高池 葉子氏 大橋 康孝氏
Yoko Takaike Yasutaka Ohashi

PRODUCT 外壁材 / SOLIDO typeF facade (セメント03)

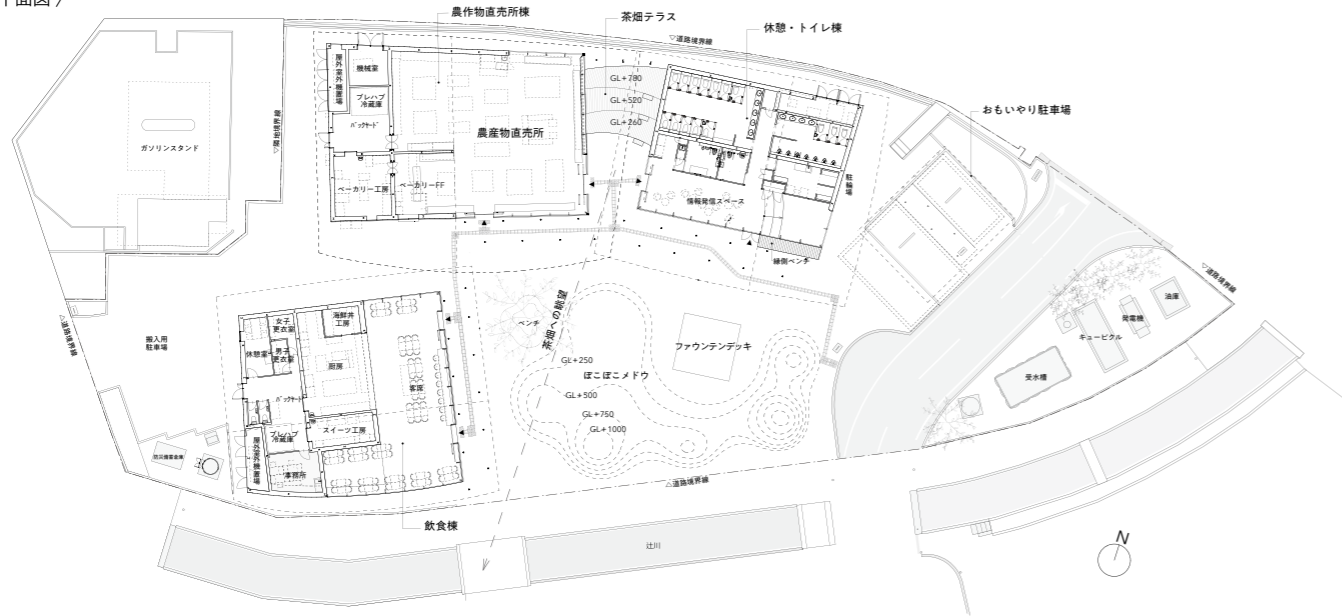
茶畑を模した“浮遊屋根”が、
のどかな風景の一部となる。

広大で緩やかに連なる茶畑が織りなす風景のなかに立つ、牧之原市初の道の駅。中央の広場を囲むように、飲食棟や農産物直売所棟などを配置することで、敷地全体の散策を促した。屋根は茶畑の起伏をモチーフとし、軽やかさと伸びやかさを感じさせる「浮遊屋根」に。その屋根が各建物の前面に大きくせり出すことで生まれた軒下空間が、全体をつなぐ「回廊」として機能する。(応募資料より抜粋)

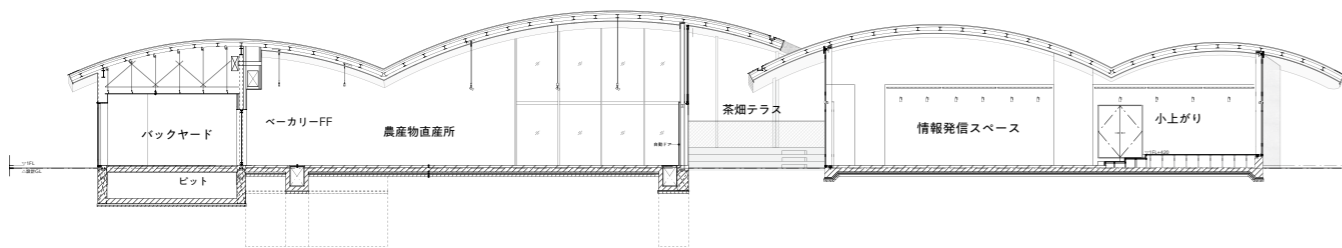
/ JUDGE'S COMMENT by 永山祐子 /

ふわふわと浮かぶような屋根がのどかな田園風景に映える、とても素敵な建築です。建物内から見ても素晴らしく、屋根の独特な曲線が空間を柔らかく包み、心地よい場所を作り出しています。

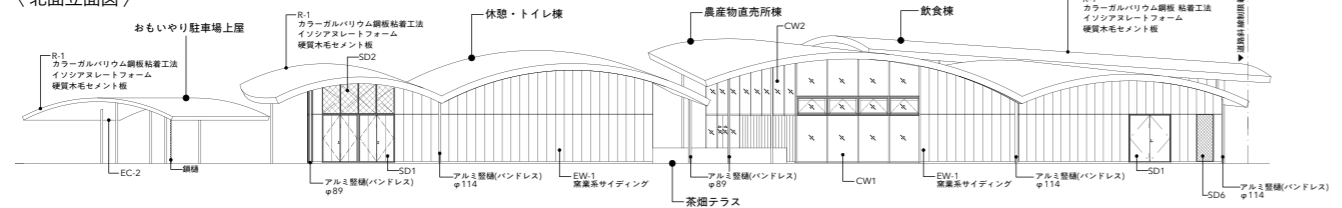
〈平面図〉



〈農産物直売所棟、休憩・トイレ棟 断面図〉

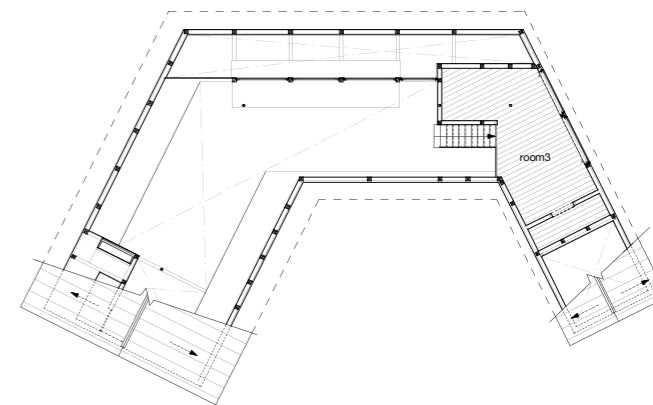


〈北面立面図〉





〈2F 平面図〉



〈配置図兼1F 平面図〉

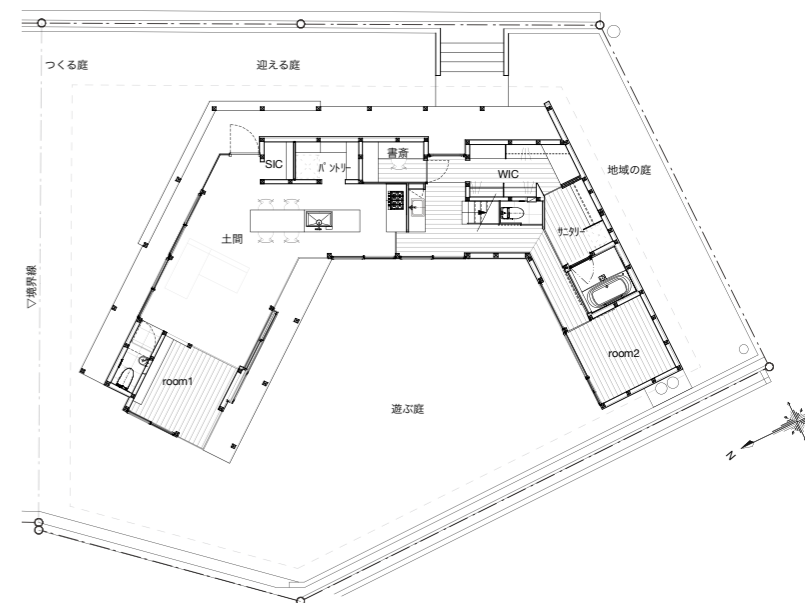


Photo by 山内紀人

Excellence Award
優秀賞

脊梁のいえ

[奈良県 奈良市]



建築設計事務所SAI工房

斉藤 智士 氏
Satoshi Saito

PRODUCT 外壁材 / SOLIDO typeF facade (セメント02)
内装材 / SOLIDO typeF facade (セメント02)

三次元的な変化を楽しむ、
平屋建ての住まい。

三方を道路に囲まれた傾斜のある地形を活かし、平屋建てながら視覚的シークエンスの変化を楽しめる計画とした。北側には軒下ベンチのある「迎える庭」、東側には菜園や鑑賞園を配置。中庭は家族の「遊び庭」とし、化粧柱・垂れ壁・土間で建物と庭を連続的につなげた。また、軒高を一定に保ちつつ部分的に2層ボリュームを確保するため3~7寸勾配に連続的に変化する屋根を設けた。(応募資料より抜粋)

/ JUDGE'S COMMENT by 永山祐子 /

細部まで吟味して設計された、非常に完成度の高い住宅です。外に開きつつもプライベートが確保できるよう配慮されており、豊かな暮らしが想像できる、居心地のよい住まいだと感じました。

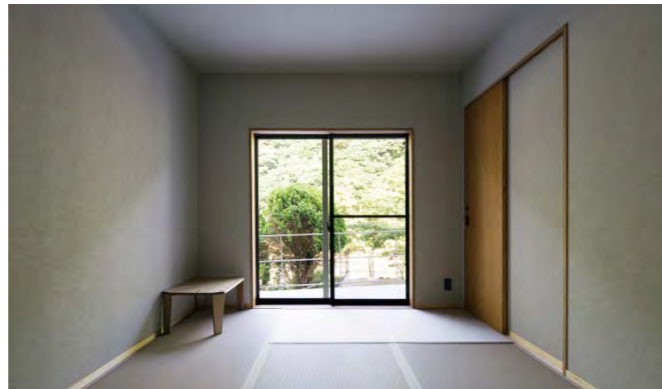


Photo by Kazuoki Yasugi

Excellence Award 優秀賞

SEN.RETREAT TAKIJIRI

[和歌山県 田辺市]



株式会社 クル

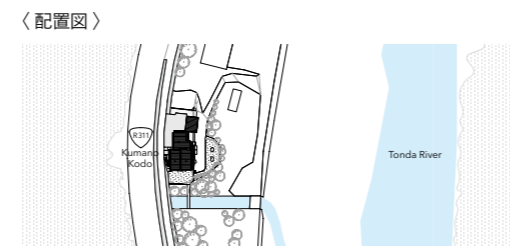
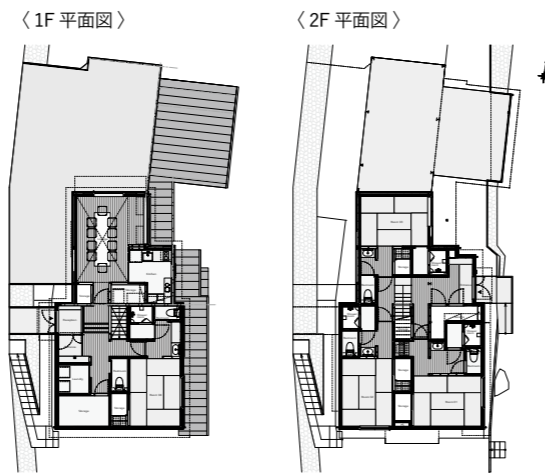
尾芝 淳二氏
Junji Oshiba

笹江 章弘氏
Akihiro Sasae

coil 松村一輝建築設計事務所

松村 一輝氏
Kazuteru Matamura

PRODUCT 外壁材 / SOLIDO typeF facade (セメント01)



BEFORE
川沿いの斜面地に、かつてはペットショップとして使用されていた木造および重量鉄骨造の混構造2階建ての建物。

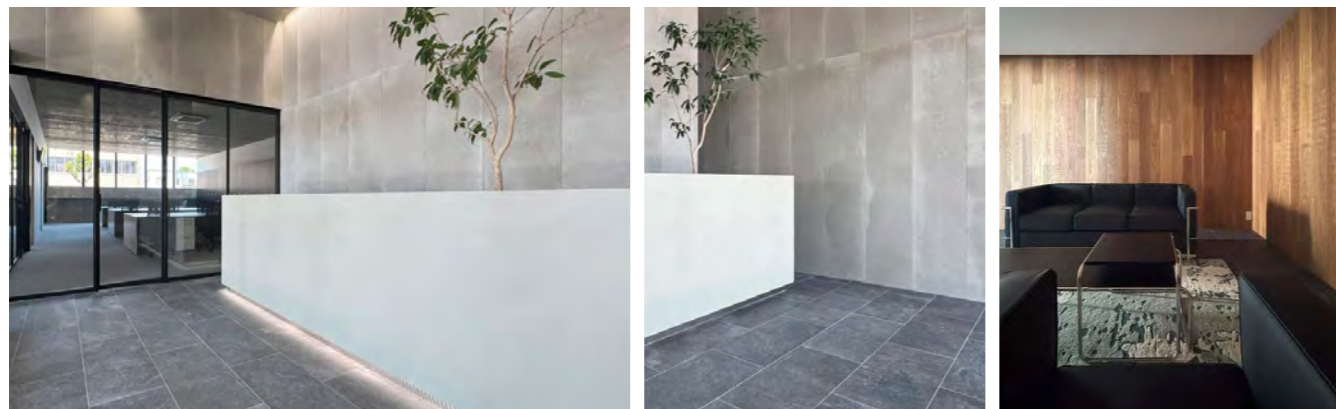
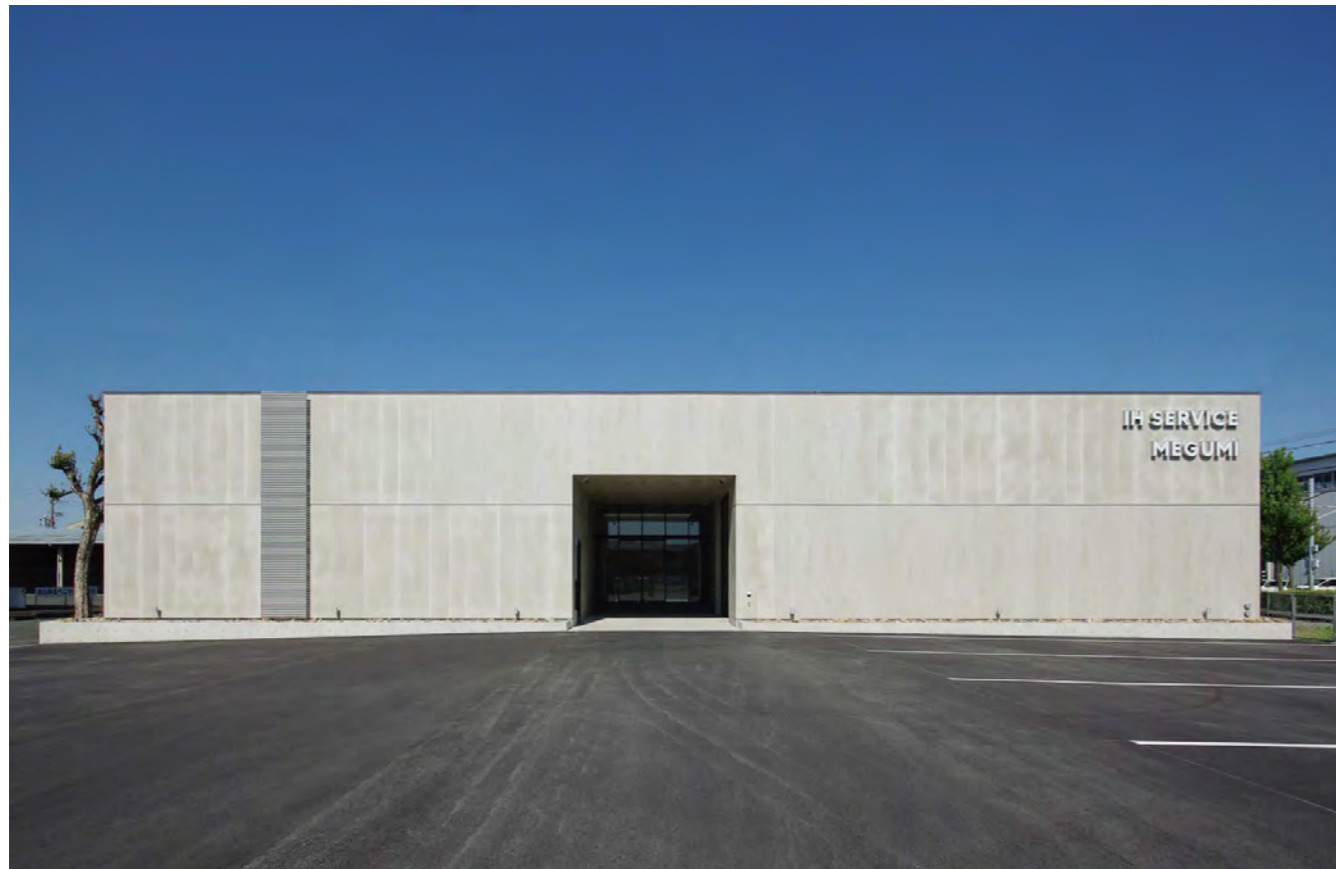
色鮮やかな装いを、
風景と調和する佇まいへ。

元ペットショップを世界遺産・熊野古道の巡礼者向け簡易宿所へと再生するプロジェクト。外装に〈SOLIDO typeF facade〉を全面採用し、川沿いの自然に調和するグレートーンの外観とした。また、上層階が車道に、下層階が河原に面する斜面地を活かし、積層感のある構成に。坂道や階段を通して自然の中へと引き込まれていくような動線と風景体験を設計した。(応募資料より抜粋)

/ JUDGE'S COMMENT by 成瀬友梨 /

受賞作品の中で唯一のリノベーションプロジェクトで、その劇的な変化にとっても驚きました。元の特徴的な建物を、〈SOLIDO〉を上手く使って緑に映える佇まいへと昇華させた手腕が素晴らしいです。





Special Award 特別賞

問屋町の社屋

[愛知県豊橋市]



株式会社 空間建築-傳

山本 智一 氏
Tomokazu Yamamoto

PRODUCT 外壁材 / SOLIDO typeF facade (10 尺品)(セメント01)
内装材 / SOLIDO typeF facade (10 尺品)(セメント01)

周辺環境を味方につける、 逆転発想の素材選び。

70坪の事務所と60坪の倉庫からなる社屋の建て替え計画。交通量が多い周辺環境において汚れ防止を目指すのではなく、汚れすらも味になるという考え方から、〈SOLIDO〉を外壁材として選択した。事務所の天井には木毛セメント板、応接室の壁には帯鋸目加工したオーク材などで空間の雰囲気を変化させつつ、エントランスなどには〈SOLIDO〉を使用し、内部と外部につながりを持たせた。(応募資料より抜粋)

/ JUDGE'S COMMENT by 成瀬友梨 /

やさしい色合いの〈SOLIDO〉を使い、端正で美しいファサードと、シャープで心地いい内部空間が実現されています。働く人と街行く人、どちらにとっても気持ちのいい建築になっていると感じました。

Special Award 特別賞

中道のアトリエ

[大阪府 大阪市]



株式会社 カイトアーキテクト
一級建築士事務所

京 智健 氏
Tomotaka Kyo

PRODUCT 外壁材 / SOLIDO typeF facade(セメント01)

長屋のイメージを覆す、 街にひらいた建築。

大阪市にある中道八阪神社の参道沿いに建つ、アトリエ兼住宅。神社の祭事の際には多くの方が訪れる場所であることから、道に対して閉ざさず、ふらっと立ち寄れるようにしたいと考えた。そこで、通りにある鳥居の高さや参道の道幅を意識し、フレームと線が引き立つスチールサッシのガラスファサードを計画。従来の長屋のイメージとは異なる、光や風を通す奥行きのある空間とした。(応募資料より抜粋)

/ JUDGE'S COMMENT by 藤本杜介 /

内部の家具や人の活動が道にふわっと立ち現れるような、開放的なつくりが魅力的です。近隣の方がふらっと立ち寄ることもできる、都市的な役割を持ったデザインが素晴らしいと思いました。

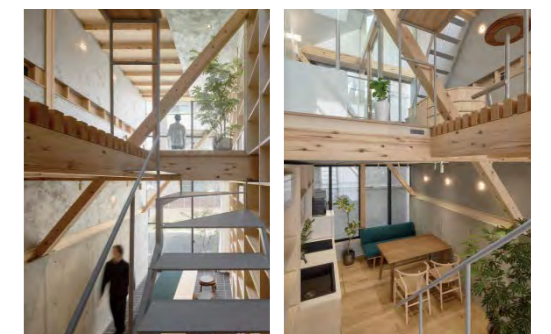


Photo by 森石 風太 (Nacasa & Partners)



Selection Award
入選

**アドベンチャーバレー 龍ヶ崎
(龍ヶ崎市森林公園) 管理棟**

[茨城県 龍ヶ崎市]



株式会社 エキップ

伊達 宏晶 氏
Hiroaki Date

PRODUCT 外壁材 / LAP-WALL Uroko (グラッサ・ファジーブラウン)

自然と調和し、
人に寄り添う佇まい。

龍ヶ崎市にある森林公園のリニューアルプロジェクトの一環として、誰にとっても親しみやすいことを目指した公園管理棟を計画。内外からの景観を遮らないよう意図しつつも、建物自体と軒を低く抑えることで、訪れる人々に開放感と安らぎを感じてもらえる設計に。また、公園内のキャンプ場をイメージし、低い屋根と高い屋根を組み合わせることでテントのような印象を持たせた。(応募資料より抜粋)

/ JUDGE'S COMMENT by 成瀬友梨 /

風が吹いたらためきそうな、軽やかさのある建築。うろこ柄のファサード素材は、焦茶色を選んで建物の木やシルバーと組み合わせることで、個性を演出しつつ、周りの自然にも見事にマッチさせています。



Selection Award
入選

表表居

[栃木県 宇都宮市]



T-Square Design Associates

津田 茂 氏
Shigeru Tsuda

PRODUCT 外壁材 / グランネクスト Sand (グレイ×グレイ)
内装材 / SOLIDO typeM_FLAT (セメント)

唯一無二の外観を作り出す、
かつてない素材の魅せ方。

幹線道路沿いに建つ店舗併用住宅。街に対して開く店舗部分と、住まいなどの閉じる部分が共存する建築である。道路正面の印象的な開口部以外がほぼ壁となる構成としたため、外壁材の選定は非常に重要な要素であった。本計画では、工業製品であるサイディング材に着目。そこに鋼板で作った水切りをランダムに挟むことで、季節や時間によって異なる表情を見せる外観とした。(応募資料より抜粋)

/ JUDGE'S COMMENT by 成瀬友梨 /

サイディング材に水切りを挟むという、素材の新しい使い方を勉強させていただきました。この工夫によって一般的な素材が特別なものになり、陰影の美しい、奥行きのあるファサードに仕上がっています。

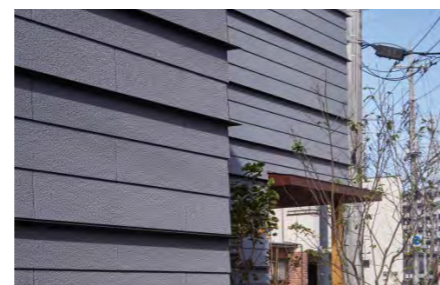
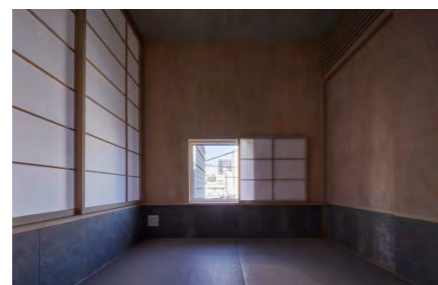


Photo by 楠瀬友将



Photo by 太田まさお

Selection Award 入選

豊中の家

[大阪府 豊中市]



行田興産株式会社 一級建築士事務所

行田 英視 氏
Eishi Yukita

PRODUCT 外壁材 / SOLIDO typeF facade(セメント01)
内装材 / SOLIDO typeF facade(セメント01)

眺望を活かした、 風の通り抜ける住宅。

高台の敷地に建つ、眺望を重視した住宅。四周を跳ね出した鉄筋コンクリートの基礎の上に建物を計画した。本体はバルコニーで囲い、北面は水廻りなどのサーバントスペースを配置。南面はガラス開口部で覆われたサーブドスペース（リビングダイニング）とし、その東西を全開口サッシにすることで、家の中を風が通り抜けるつくり。移り変わる空と風を感じながら生活できる住宅にした。(応募資料より抜粋)

/ JUDGE'S COMMENT by 永山祐子 /

素晴らしい立地を、深い構成で見事に活かしています。外に向かって軽やかに開かれた住まいはとても気持ちよさそうで、ごちんまりとした可愛らしい表情の外観も魅力的だと感じました。



ARCHITECTURAL
DESIGN AWARD 2025
presented by KMEW

https://www.kmew.co.jp/arc_design_award2025/



KMEW
2026年3月
5XY

第1版

ケイミュー株式会社

〒540-6013 大阪府大阪市中央区城見1-2-27 クリスタルタワー 13F
©KMEW Co., Ltd. 2026

このカタログの記載内容は2026年3月現在のものです。
26.03.31

ケイミュー株式会社のホームページアドレス <https://www.kmew.co.jp/>

● ご注意：掲載物件の写真は光線の具合により商品の色の見え方が異なります。
また印刷物と実物とは色が異なります。現物の商品サンプルなどでお確かめください。



KMEW